

防災アートに学ぶ

幸田で山本さん展示会

幸田町菱池の芸術家山本辰典さん(66)が町内で起きた災害をテーマに考案した現代芸術の展示会「地に生きる人びと」が十日、同町大草のギャラリーRIEN(リアン)で始まった。四月二日までの金、土、日曜午後一七時に無料で鑑賞できる。

山本さんは愛知教育大卒業、広島市立大学院修了後、四角形をモチーフにした現代芸術のインスタレーション作品などを制作している。東日本大震災から六年になるのに合わせ、身近で起きた災害について考えてもらおう。

豪雨の時は干拓地で

ある菱池が泥水で埋め尽くされた。山本さんは、今は駅になっている場所などを自作した小舟を持って歩き回ることで「池」の記憶をよみがえらせる映像をつくり、水の音と共に上映した。また、学校の机の上

に五、四方の木片を並べ、断層上に立つ街の様子を表現。山本さんは「昔、巨大な池があったことや地震の記憶を忘れないでほしい」と話している。

(森田真奈子)



池に舟が浮かぶ様子を再現した映像と、断層上に並ぶ街を表現した作品。幸田町大草で